

「玉城町かわまちづくり協議会」 設立趣旨

宮川流域に位置する玉城町は、古来より伊勢参宮の宿場町、世界遺産熊野古道の街道起点をなす要衝として栄え、また、北畠親房が築城した田丸城跡をシンボルとした歴史文化に溢れる町です。

本町では、豊かな自然や貴重な歴史的資源を活用しながら観光振興に繋げていくため、「玉城町観光振興計画」を策定し、地域資源を最大限に活用して魅力的な観光メニューやサービスが提供され、多くの観光客をひきつけるための取り組みを進めており、地域資源の発掘と魅力向上により観光交流人口の拡大を目指し、ひいては地域活性化に繋げていきたいと考えています。

このような中、国土交通省により、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や、都市部の貴重なオープンスペースである河川敷地を活用した快適で賑わいのある水辺空間の創出を目指し、平成 21 年に「かわまちづくり支援制度」が創設されました。

かわまちづくり計画に位置づけるたまき水辺の楽校は、令和元年 5 月の開設以降、多くの利用者が訪れており、近年は施設を活用した様々なイベントも開催されています。

このようなことから、たまき水辺の楽校のさらなる有効な利活用を進めていくとともに、周辺地域とも連携した魅力向上を目的に、水辺空間の整備方針を定める「たまきかわまちづくり（仮称）計画」を策定し、国に対する支援制度の登録に向けた検討を行うため、「玉城町かわまちづくり協議会」を設立します。